

支援センター名	やまなし青少年体験活動支援センター	
所在地	〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2丁目35-1 (山梨県ボランティアセンター内)	
連絡先	Tel 055-224-2941 Fax 055-232-4087 ホームページ http://www.yva.jp/	

事業の概要

9月に開催される「第11回全国ボランティアフェスティバルやまなし」を若さ溢れるエネルギーで盛り上げようという目的で、県内の中学生、高校生、大学生、専門学校生による青少年ふれあいボランティアチーム「甲斐縁隊（かいてんたい）」を結成した。

コーディネーターは、情報提供、青少年の主体性を育てるサポート、学校との連絡調整をし、世代を越えたふれあいをとおしてボランティア教育としての成果をあげることができた。

関係した学校・団体の名称

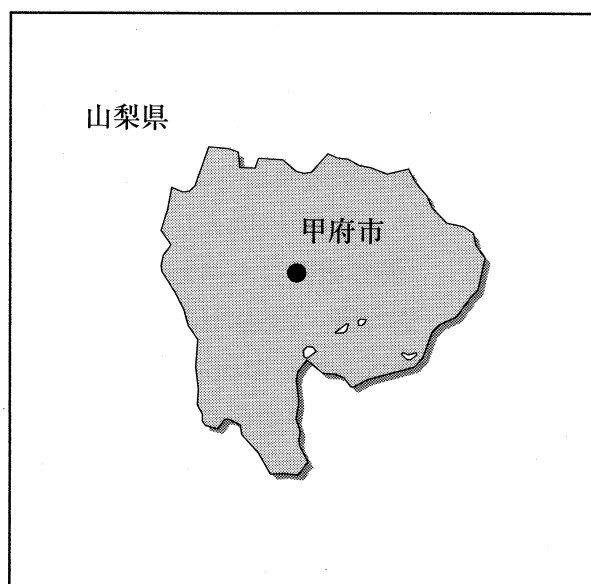
山梨大学付属中学校、日川高校、甲府東高校、駿台甲府高校、甲府城西高校、東海大甲府高校、韭崎高校、甲府昭和高校、山梨高校、甲府南高校、甲府第一高校、甲府湯田高校、甲府商業高校、あけぼの養護学校、山梨大学、山梨英和大学、山梨学院大学、山梨学院大学院、山梨学院短期大学、山梨県立女子短期大学、帝京医療福祉専門学校、帝京山梨看護専門学校

地域の現況・特色

山梨県は人口89万人の小規模県で、甲府エリアを中心とする「国中地域」と富士山に近いエリアを指す「郡内地域」に地理的区分がされている。

山梨県は、国立公園や国定公園などが多く、山紫水明の優れた自然景観に恵まれているため、「環境首都山梨」をキャッチフレーズに自然環境保護のボランティア活動が盛んに取り組まれている。また、産業も自然を生かしたものが数多く、四季折々を飾るフラワー公園やサクランボや桃、ぶどうなどの果物の生産も高く、「フルーツ王国」でもある。

教育面では、「自分をつくる山梨をつくる」



をキャッチフレーズに、新しい時代を主体的・創造的に生きるやまなし人づくりを目的にさまざまな事業展開をしている。

当センターは「国中地域」にある甲府市に位置している。無論、全県域をカバーする情報提供やコーディネートを行ってはいるものの、日常的にセンターに出入りし易いエリアにある中学・高校は限られている。しかし、既設の山梨県ボランティアセンターの活動をとおじて地域にかかわらず、大勢の青少年が来館し、青少年の手によるボランティア活動なども活発である。

センターに来館する青少年達の学校・学年・所属クラブなどは多様であるが、一般的に指摘されている「異年齢、異世代間交流の不足」、「集団での活動経験の不足」、特に「高校生のかかわる校外活動の場や機会」が少ない現状は、本県においても共通の課題がある。

企画から活動までの経緯

- 5月12日 「第7回出合い・ふれあい・夢・愛広場」を開催し、260名の青少年と一般成人が集まった。コーディネーターと青少年リーダーとがその場で話し合い、今年9月に開催する「第11回全国ボランティアフェスティバルやまなし」で人をつなげる役割を担おうと、青少年リーダーから「全国ボランティアフェスティバルを支える青少年隊」発会の主旨を説明し、メンバーを募った。(60名)
- 5月17日 コアメンバー会議を実施する。会の名称を「甲斐縁隊」とし、メンバー募集を6月中旬まで150名を目標に行うことと、活動内容等について協議する。
- 5月30日 「甲州YOSAKOI班」練習開始。毎週木曜日に練習を行う。
*6月～7月チラシを作成し、ボランティア募集PRをする。
- 6月 1日 「青少年ボランティアリーダー研修会実行委員会」
「甲斐縁隊」が受付、班別活動のリーダーなどを努め、全国ボランティアフェスティバルに向けてのトレーニングを行うこととなった。
- 6月16日 「青少年ボランティアリーダー研修会」
研修会運営に携わるとともに、「甲斐縁隊」への参加をPRした。
- 6月21日 「甲斐縁隊結団式」
山梨県議会ボランティア議員連盟にご参加いただき、結団式を行う。(エントリーメンバー105人)
- 7月 5日 「舞台企画打ち合わせ」
進行班・YOSAKOI班、合同で舞台の幕間企画「ボランティア通りからこんにちは」の構成、台本についての打ち合わせを行う。
- 7月6・7日 「進行班台本作成・練習計画立案会議」
台本作成を完了し、練習計画を立案する。
※7月18日～9月10日
- ・「第1～11回3班合同練習会」を実施する。
 - ・Tシャツを完成させる。

- ・「ふれあい班」全国VF会場の打ち合わせをする。
- 9月 6日 「甲斐縁隊出陣式&第10回3班合同練習」
山梨県議会ボランティア議員連盟の方々にご出席いただき、出陣式を開催。
- 9月20日 「前日舞台リハーサル」
- 9月21日 「全国ボランティアフェスティバル・ボランティア通からこんにちは」
本番参加者120名
- 10月 5日 甲斐縁隊「明日の希望を語る会」を開催し、当日活動したメンバー52名が集う。
「甲斐縁隊」を存続させるか、解散するか、存続するなら今後どのような活動をしていくのか？今後の方向性を決定していくために“アンケート”をとり、更にグループ討議を実施した。
- 10月18日 ヤングエイジフェスティバルで展示する壁新聞を作成。
- 10月25日 企画ミーティング
*山梨県ボランティア協会などの事業に企画運営参加して現在に至っている。
(現在隊員71名)

事例の展開内容（特色）

- ・コーディネートにより、「甲斐縁隊」の各チームリーダーを中心に若者が主体的に活動できるようにサポートし、隊全体が目的に向かって自主性、主体性、連帯性を培い、育ち合う場とする。そのために、ア) ふれあいチーム（さわやかなあいさつをし、やさしく会場を案内する。シャトルバス発着場での「ふれあい・あいさつ活動」など）、イ) ステージ企画・進行チーム（開会式の幕間（休憩プログラム）で山梨のボランティアの元気をアピールする寸劇の企画「ボランティア通からこんにちは！」と会場インタビュー）、ウ) 甲州YOSAKOIチーム（武田節をダンスビートにアレンジしたダンスで活動を展開）の3チームを編成した。
- ・体制は、隊長（山梨県議会ボランティア議員連盟会長）、青少年隊長（大学生）、3チーム、サポーター（山梨県ボランティア議員連盟及び市民ボランティア）で構成し、大人が青少年を育てる、また活動を支援する仕組みを工夫した。

企画・活動する上でのポイント・留意点など

- ・活動自体に前例がなかったので、青少年とコーディネーターで白紙から活動をデザインしていく初期の段階で統一したイメージ化を図り、それを共有していく作業が難しかった。
- ・青少年が主体的に責任を持ってプロジェクトに取り組み、達成感・充実感・感動が得られるよう、学校でのメンバー集めのための連絡・調整のほか、コアメンバー（学校別リーダー・役割班の班長・小班リーダー）の個性の把握に留意した。
- ・参加者の募集は「割り当て・動員」ではなく、あくまでも自発的な意思を原則とした。
- ・チームの連帯感・一体感を創出していくために同一学校内、学校間、役割班での関係など、人間関係を複合的につなぎ、上級生が下級生の世話をしていく仕組みをつくることに留意

した。

- ・進行班の手による台本作成はメンバーとコーディネーターが時間をかけて議論した。
- ・YOSAKOI班の練習と振り付けのアレンジに甲州YOSAKOIを踊る会の方にかかわっていただき、進行班（寸劇）では演劇経験者などに指導をしていただいた。
- ・受験を間近に控えた学年の参加者も多数あり、勉強と活動の両立・学校行事や学習への負担とならない練習や打ち合わせ日程の作成などに苦勞した。
- ・「ふれあい活動」は他県から来場する方達へのあいさつ・案内など、初対面の方達へのコミュニケーションが課題であった。
- ・合同練習の回を重ねていく毎に出てきた課題やその改善アイデアと修正練習など、青少年たちの課題の意識・課題解決力に任せて、時間をかけながらクリアしていった。
- ・全国ボランティアフェスティバル本番がゴールではなく、その地点がスタートとなるよう支援していくことを心がけた。

評 価

学校や地域での体験活動を支援していくと同時に「学校では体験できないこと」、「学校生活にはない喜び・感動」がどれだけ「できること」になるよう取り組むかは、支援センターの重要な視点であると同時に、果たすべき役割のひとつであると言える。

「全国ボランティアフェスティバル」というイベントを起点に学校以外の場所で青少年のかかわる場、青少年の育つ場づくりを行い、「異年齢・異世代との交流」や「集団活動」を通じて青少年の育成とボランティア活動への参加促進を図っていったことは評価できる。

活動を通じて青少年達は自らの変化に気づき、事後の活動へもつながっており、そのフォローも行われている。